

若手研究者・女性研究者・外国人研究者を対象に、情報発信の方法に関する相談に応じ、制作費用を支援するものです。市民社会向けはもちろん研究者どうしの交流にも着目し、これを盛んにして大阪大学全体の研究力向上につなげる考えです。



## 本事業のポイント

### 研究者のライフサイクルを見据えたサポートの実施

- ① 研究を発展させるためにどのような情報発信を行えばよいのか、その長期的な方針を検討する段階での相談に応じる。(経営企画オフィス研究支援部門が担当)。
- ② 研究内容を説明するためのグラフィックスなどを制作する場合、6万円(消費税込)を上限に必要な費用を支援する。研究者が長くつきあえる制作パートナーを探す上での支援も視野に含める。
- ③ 大阪大学研究者総覧やResearchmapといった既存の研究者情報ポータルでのフル活用や、Facebook等SNSの活用を前提とし、自前のHP制作や運用を最小限にとどめる発想を基本とする。

### 専門性によるサービスレベルの向上

高等教育、大学経営に関する修士号をもつURAによって、近年の大学における研究活動や科学技術・イノベーション政策を踏まえての支援を実行する。広告クリエイティブ、サイエンスコミュニケーション、アウトリーチ活動に関するディレクション経験を有する実務家や海外の研究戦略に詳しいURAを支援チームに加えることで、サービスレベルの向上を図る。



## 取り組み実績と得られた成果

平成25年度に当プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援内容の見直しを行う一方、1件あたりの支援コスト縮小によってより多くの研究者に、費用対効果に優れたサービスを提供できる体制構築を模索してきた。平成30年度までに合計50件の支援を実施し、1件当たり支援コストは約 1/7 に低減した。

令和元年度以降は英語論文執筆支援等と統合し、研究情報の発信を目的とする相談に対応する。様々な研究者コミュニティで活用されている Researchmap や Facebook 等のサービスを活用するなど、研究者本人がホームページを設置運用すること以外の手段も検討し、コストパフォーマンスの高い情報発信につながる助言を目指す。



## 本事業の目指すイメージ

### 研究の質を高める情報発信を支援する。

費用支援 + URAによる支援

研究者の情報発信ニーズに広く対応する。気軽に相談できるサービスを目指す。

大阪大学が運営する研究者総覧やResearchmapの活用など、基本となる情報発信をしっかりと行う。

適材適所で図や動画を使うために、制作者と研究者を結び付ける(費用面だけでなく、適した人材を探す部分をサポートする)。



## 採択者の声

### ●文学系研究科若手研究者より

HPを作成いただいたおかげで、私の研究や教育関連イベントをフェイスブック、ツイッターなどで告知し、そのままホームページに引き込んで私を知って貰う流れを作ることができています。とても役に立っています。授業受講学生に対して休講などの速報をツイッターで流すことで、登録(フォロー)してもらって、イベント周知に利用するというかたちもできました。本当にありがとうございます。

### ●工学系若手研究者より

研究者としての実績については(大阪大学)研究者総覧や Research Map などのサービスを利用して遅延無く正確に情報を発信すること、またホームページでは外部のサービスにストックできない情報を載せていくというような使い分けのアイデアが新鮮だった。無理なく続けられて、効率のよい情報発信ができるようになった。ありがとうございます。